

南部地区の概要

1 地勢等

地域の西部は、蔵王連峰の裾野に広がる丘陵地帯であり、蔵王連峰は蔵王国定公園、丘陵地帯は蔵王高原県立自然公園に指定されています。東部は、阿武隈川・白石川が流れる平野部であり、白石川沿いの桜並木は仙南地域を代表する風景になっています。また福島県と接する阿武隈川流域は、阿武隈渓谷県立自然公園に指定されている。北東部は仙台都市圏に隣接し、住宅開発が進んでいます。

仙南地域の面積は、155,144 haで、県土の 21.3%を占めており、その土地利用状況を概観すると、総面積に占める森林の割合が 69%と、県全体の 57%を上回っています。

気候は、県内では比較的温暖であるが、地形により気温、降水量などにかかなりの差が見られ、冬期は蔵王おろしに象徴される西からの強風が吹きます。

古くから街道や水運による交通の要衝となっており、東北新幹線・東北本線・阿武隈急行線の鉄道網や、東北自動車道・山形自動車道の高速度交通網が整備されています。

※「仙南地域の概要（平成 27 年度）」（大河原地方行政連絡調整会議）から引用

2 人口関係

- 宮城県の人口は概ね横ばいで推移していますが、仙台都市圏を除き各圏域の人口減少が顕著となっており、仙台都市圏への一極集中化が進んでいます【表 1】。

仙南圏域の人口は、平成 7 年度をピークに減少に転じ、平成 27 年度の国勢調査では平成 7 年度と比べ約 10%減少し 177,238 人（県人口の 7.6%）となっています。

- 仙南圏域の各自治体について見てみると、総じて減少傾向であるものの、過疎地域に指定されている七ヶ宿町・丸森町で減少率が大きく、柴田町ではほぼ横ばい、大河原町では増加傾向にあります【表 2】。

- 平成 22 年度の仙南圏域の年齢別人口は、平成 7 年度と比べ、15 歳未満の年少人口が約 34%減少し 22,467 人、15～64 歳のいわゆる生産年齢人口（労働人口）が約 11%減少して 112,101 人となる一方で、65 歳以上の高齢人口が 31%増加し 48,552 人となっており、少子高齢化が急速に進んでいます。

なお、県全体に占める仙南圏域の労働人口（15～64 歳）割合は 7.5%となっています【表 3】。

3 産業関係

(1) 産業構造

- 平成 24 年度の市町村民経済計算における仙南圏域の総生産額は約 5,800 億円で、県全体に占める仙南圏域の総生産額割合は 6.7%となっています。
県全体に占める産業別の仙南圏域の割合は、1次産業が 11.4%、2次産業が 10%となっており、いずれも仙南圏域の労働人口割合 7.5%（前述）を上回っていることから、これらの産業が盛んな地域と考えられます。
また、2次産業のうち製造業については、域内構成比 28%となっており、県内で最も高い数値となっています【表 5】。
- 産業別事業所数及び従業員数についても、1次及び2次産業の構成比が、宮城県の構成比を上回っていることから、1次及び2次産業が盛んであることが伺えます【表 6】。
- 従業員数の上位に位置する業種は、製造業、卸売業・小売業、医療・福祉業、建設業、宿泊・飲食業となっており、この5業種で約 53,300 人が雇用されています【表 7】。

(2) 1次産業

- 農業経営体数の県全体に占める仙南圏域の割合は 16.5%と仙南圏域の労働人口割合 7.5%を大きく上回っており、農業の盛んな地域と考えられます【表 8-1】。
- 農業就業者の年齢構成については、農業就業者の県全体に占める仙南圏域の割合が 12.7%になっているのに対して、15~69 歳までの各年代の割合は、いずれもこれを下回っており、若い年代の就業者数が少ない地域と考えられます【表 8-2】。
- 耕地面積は、果樹及び畑の割合が大きくなっています【表 9】。
- 園芸作物については、野菜 5 品目、花き 4 品目、果樹 4 品目が地域戦略品目（圏域の特性に応じた振興品目）となっています【表 10】。
 - ・野菜の生産については、「そらまめ」、「さといも」、「つるむらさき」、「ブロッコリー」の生産量が多くなっています。宮城県の「つるむらさき」の生産量は全国で 2 位となっており、仙南圏域は全国的な産地となっています。
 - ・花きの生産が盛んな地域であり、特に菊類の生産が多くなっています。
 - ・果樹の生産も盛んな地域であり、「なし」・「りんご」に加え、「もも」・「うめ」・「かき」の生産も盛んに行われています。
- 林業については、林業経営体数の県全体に占める仙南圏域の割合は 23.9%となっており、林業の盛んな地域と考えられます【表 11】。

- 畜産業については、飼養戸数が仙南圏域の労働人口割合 **7.5%**を上回っており、畜産業が盛んな地域と考えられます。特に、乳用牛及び肉用牛の飼養頭数の県全体に占める仙南圏域の割合は20%を上回っており、県内有数の産地と考えられます【表 12】。
- 多くの農産物直売所がこの圏域にあることや、県内の農業生産関連事業を行う経営体数の約25%が仙南圏域にあることから、農業生産のみにとどまらず、農業経営の多角化が進んでいる地域と考えられます【表 13-1, 13-2】。

1次産業のポイント

- 農林畜産業の全てが県内有数の産地
- 農業経営の多角化の先進地
- 後継者の育成と経営基盤の強化が課題

(3) 2次産業

- 仙南圏域の製造業従事者は約 21,500 人となっており、県内の製造業従事者の約 18%が仙南圏域で製造業に従事しています。また、仙南圏域の労働者のうち 29%が製造業に従事しており、地域の雇用の大きな受け皿となっています【表 7】。
特に雇用数の多い輸送用機器製造業と電子部品製造業の県全体に占める仙南圏域の割合は、それぞれ 34.3%と 20.4%、従業者数はそれぞれ約 3,000 人、約 2,800 人となっています【表 14】。
- これに加え、地元の多様な農林畜産物を活かし、地域食材を原料とした食品製造業も数多く立地しています。食品製造業従事者は約 3,600 人となっており、製造業の中でも最大の雇用の受け皿となっています【表 14】。

2次産業のポイント

- 機械系製造業を中心に2次産業が集積
- 1次産業の強みを生かし食品製造業が盛ん

(4) 3次産業

- 仙南圏域の3次産業については、域内総生産額の県全体に占める割合は5.6%【表5】、産業別事業所数及び従業員数の県全体に占める割合は7.1%及び5.2%【表6】であり、1次及び2次産業と比べると3次産業の生産額及び労働人口等の割合がやや低い地域と考えられます。
- 雇用面からは、仙南圏域における3次産業の従業員数は約45,500人にのぼり、上位3業種の「卸売・小売業」・「医療・福祉業」・「宿泊・飲食業」で約25,600人となっています【表6】【表15】。
- 蔵王連峰や四季折々の自然、温泉といった地域特性を活かした観光業が盛んなことから、「宿泊業」が9.2%と仙南圏域の労働人口割合7.5%を上回っています【表15】。

3次産業ポイント

- 3次産業の労働人口シェアは低いが、地域特性を活かした観光業に強み
- 原発事故や蔵王山の火山活動に伴う風評被害の払しょくや外国人旅行者への対応が課題

(5) 特産品【表17】

- 農業関連
 - ・「桃」・「梨」・「林檎」・「梅」・「柚」などの果樹類や野菜類や、これらを活用した加工品（梅干し・ゆず酒・漬物など）
 - ・納豆・味噌・醤油など大豆加工品
- 林業関連
 - ・「シイタケ」・「筍」・「山菜」・「木炭」などの特用林産物
 - ・木を活用した工芸品等（「こけし」・「白石和紙」・「仙台箆笥」が伝統的工芸品として指定）
- 畜産関連
 - ・チーズなどの乳製品やハム・ソーセージなどの加工品
 - ・ブランド豚「和豚もちぶた」